

奈良県葛城市の「地域活性化」を目指す 宮城ゼミナールの活動紹介

文責者：3年 小西弘晃 小川雄大 下川裕大 村上航大

1. ～地方の観光の問題（背景）～

現在日本では、社会現象の一つである少子高齢化問題に伴い、人口が徐々に減少している。この状況が続けば、地方の過疎化は進む一方である。この問題の効果的な打開策として、「観光による地域創生」というものが存在する。一方で、地方のデメリットである認知度の低さ、交通面でのアクセス問題等の課題の解決も必要不可欠なものであると言える。

2. 活動対象（葛城市）の紹介

葛城市は、奈良県の中西部に位置しており、大阪府と接している市である。葛城市の主な観光地として、大和七福八宝めぐりに教えられている當麻寺や、日本最古の官道の竹内街道などがある。

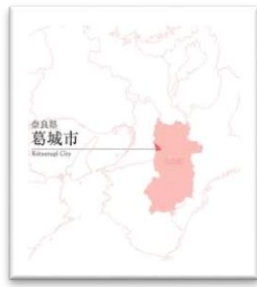


図1 葛城市の場所

4. ～葛城市の政策における3本の柱～

葛城市には、人口の増加を目指す政策の柱として3つの事象が存在する。

- 子育て支援を充実させる
- 観光業で葛城市を認知させる
- 定住支援についての取り組みを行う

私たち宮城ゼミナールは、観光業に関連する地域イベントの葛城山麓ウォーク開催に至っての取り組みを、地域の方々の協力の元、多くの観光客に足を運んでもらえるよう、試行錯誤を繰り返し活動している。

5. 株式会社総合計画機構 今井まゆみ氏の講演・葛城市役所（當麻庁舎分庁舎）のインタビュー

葛城市における観光業について取り組むにあたり、一次データの収集の為、今井氏の講演を拝聴し、それを踏まえて葛城市役所でインタビューを行った。この講演とインタビューでは、主に「葛城山麓地域の課題と地域づくり活動の状況」についてが、テーマとなった。これら二つの学びと活動の中で明確となった事は、葛城市には上記の人口減少や少子高齢化問題に次いで地域自治・伝統行事・農地の担い手、後継者の減少が問題となっていること。そして遊休農地の保全管理面積は年々増大していることが挙げられる。対策として、この遊休農地の活用には貸農園の実施や獣害の少ないミツマタの栽培研究などが行われている。地域活動の状況では、特産品開発として約5年前から栽培を始めた桑を中心に16品程度の商品化や蕎麦や花を活かした**そば打ち体験プログラムの提供、菊を活用した押し花朱印、菊ローションの商品化**に向けた取り組みが行われている。また現実逃避体験として葛城山麓ウォークを2014年から山麓の7つの集落を巡る10kmコースで開催しており、参加者自身が葛城市に出向きウォーキングをすることで、能動的参加と没入を含む体験を普及させることができる。

3. ～葛城市の人口分布（人口ピラミッド）～

現在奈良県葛城市では、深刻な少子高齢化問題を抱えている。下のグラフ（図2）は昭和55年から平成22年にあたり予想される。葛城市の男女の年齢階層ごとに分布された人口ピラミッドである。50歳以上の高齢者層の人口が多いことに対して、30歳未満の年齢層の人口が著しく少ないことが分かる。私たち宮城ゼミナールでは、葛城市がこのような状況にあるということを個々にしっかりと認識し、市の地域活性化に向けての活動をしていく必要があると考える。

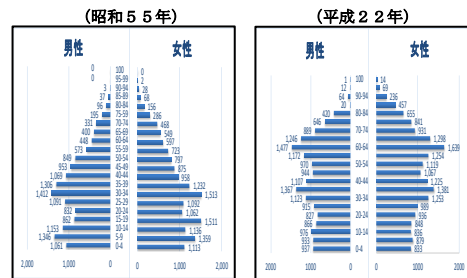


図2 葛城市人口ピラミッド (2019年11月7日参照)
<http://www.city.katsuragi.nara.jp/index.cfm/21,23398,c.html/23398/vi>



図3 葛城市アクセスマップ

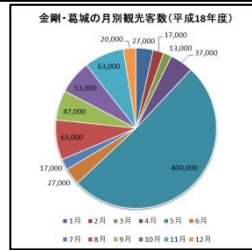


図4 金剛・葛城月別観光客数

6. なぜ葛城山麓ウォークに着目して活動を行うのか

観光を中心とした取り組みで地域活性化を目指し、地方の抱える課題の抽出を行うために、以前から提携をしていた葛城市を選んだ。その中でも私たち宮城ゼミナールが着目したのが、毎年葛城市で開催される地域イベントの葛城山麓ウォークである。この葛城山麓ウォークに着目した理由としては、葛城山麓地域の魅力の発信と併せて、毎年、地域活性化につながる方策を実験する機会として開催しているからである。さらに、実際に現地を歩いてもらい、葛城独自の魅力を5感で味わってもらえるといった体験型観光の利点も存在している。



図5 葛城山麓ウォークチラシ

7. ～前期学習内容及び活動報告のまとめと今後の活動内容～

前期の活動を通じて明らかとなった葛城市の課題として、深刻な程の少子高齢化問題と市外からの葛城市の認知度が低いことが挙げられる。だからこそ私たち宮城ゼミナールでは、体験型観光事業の1つである「葛城山麓ウォーク」を活用し、若者誘致と葛城市の認知度を高めることによって、市外からの観光客数の増加を目指していきたいと考えている。これらの目標は葛城市だけに言えることではなく、他の地域でも言える。だからこそ「葛城山麓ウォーク」のような体験型観光事業は、最も効果的であり、地域活性化の原動力でもあるため、他の地域でも各々の地域イベントを最大限に活用していくことが求められていくのではないかと考える。